

1964年の生活を題材にした 環境学習プログラムの開発

目次

1. 研究目的
2. データ収集
3. 分析手順
4. 分析結果
5. まとめ

山梨大学生命環境学部
地域社会システム学科

小林 光貴
坂野 温美
返田 隼人
真鍋 なつみ

1. 研究目的

- ▶ 科学技術の発展は、私たちに便利で快適な生活をもたらした。わが国では情報通信技術の急速な発展により、サイバー空間と現実空間が融合する「**超スマート社会**」を構想している。
- ▶ 一方、子どもたちの日常生活を見直す観点から、家電製品の普及が始まる1960年頃の生活を題材に環境学習を行うことが提案されている。
- ▶ 本研究では、環境学習プログラムの開発を目的として、シルバー世代を対象に1964年の生活に関するアンケート調査を実施した。その結果を基にテキストマイニングを用いて、**1964年の生活に関する情報を抽出**することを試みた。

2. データ収集

対象：山梨ことぶき勸学院1年生(189名)
※60才以上対象の山梨県の教育機関

日時：2015年9月15日(火)

伝言：文明の利器に依存している子どもたちに
生活を見直す資料を提供したい

方法：アンケート「1964年のライフスタイル」

内容：①1964年に苦勞したこと
②現代と比べ1964年の良いところ
③現代の子どもたちへのメッセージ

3. 分析手順

株式会社NTTデータ数理システムのText Mining Studioを活用して、アンケートの3つの質問内容に対し以下の2点の分析を行った。

- (1) ことばネットワーク
- (2) 原文解析

ことばネットワークの図から抽出した原文を踏まえて、どのような授業を行ったらよいかを考える。

最終的には、現代と1964年の生活を比較できる資料を作成し、高校生を対象に授業を実践する予定である。

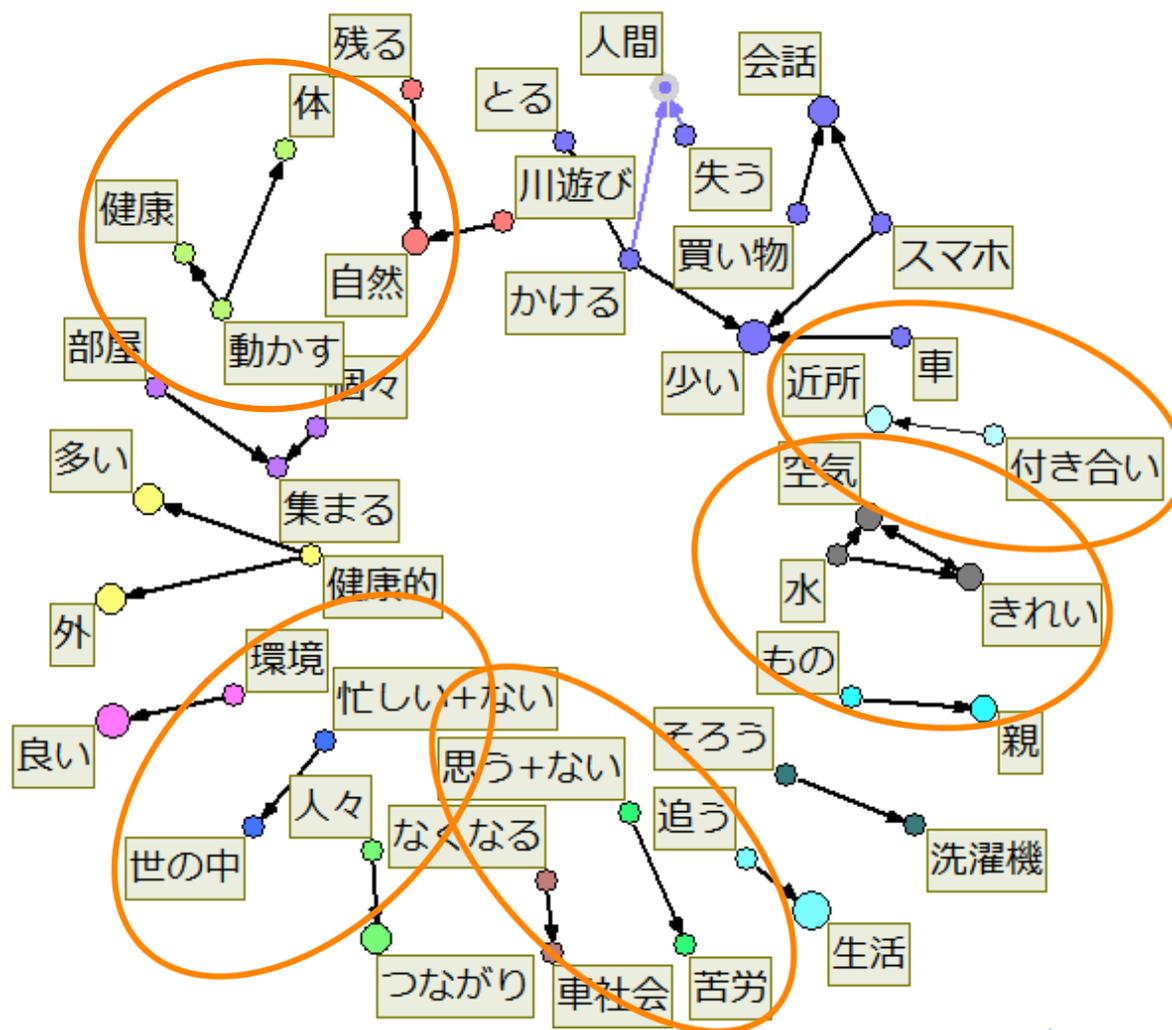
①1964年に苦労したこと 原文解析その1

- ▶ 電話が普及していなかったなので、急用の連絡に近所の家の電話を借りた。
- ▶ 井戸水を使ってましたので、お風呂、洗濯が大変でした。その後、地域で水道を引きましたが、いつも水不足で川へ洗濯に行ったりしました。
- ▶ 家が寒かった。暖房がほしかった。手にしもやけが出たこと。
- ▶ 今ほどではないが、暑い夏は扇風機があった。クーラーはないので、ランニングシャツを着ていたかな。

①1964年に苦勞したこと 原文解析その2

- ▶ 炊事は両親が薪でご飯を炊いていました。焼き魚は薪で取れた消し炭で焼いていました。
- ▶ まだ自家用車を持っていなかったため、家から6キロの道を歩いて通勤した。
- ▶ 洗濯機は絞り機が億劫だった。
- ▶ 高校に通うのにバスの便利が悪かった。1時間に1本でした。

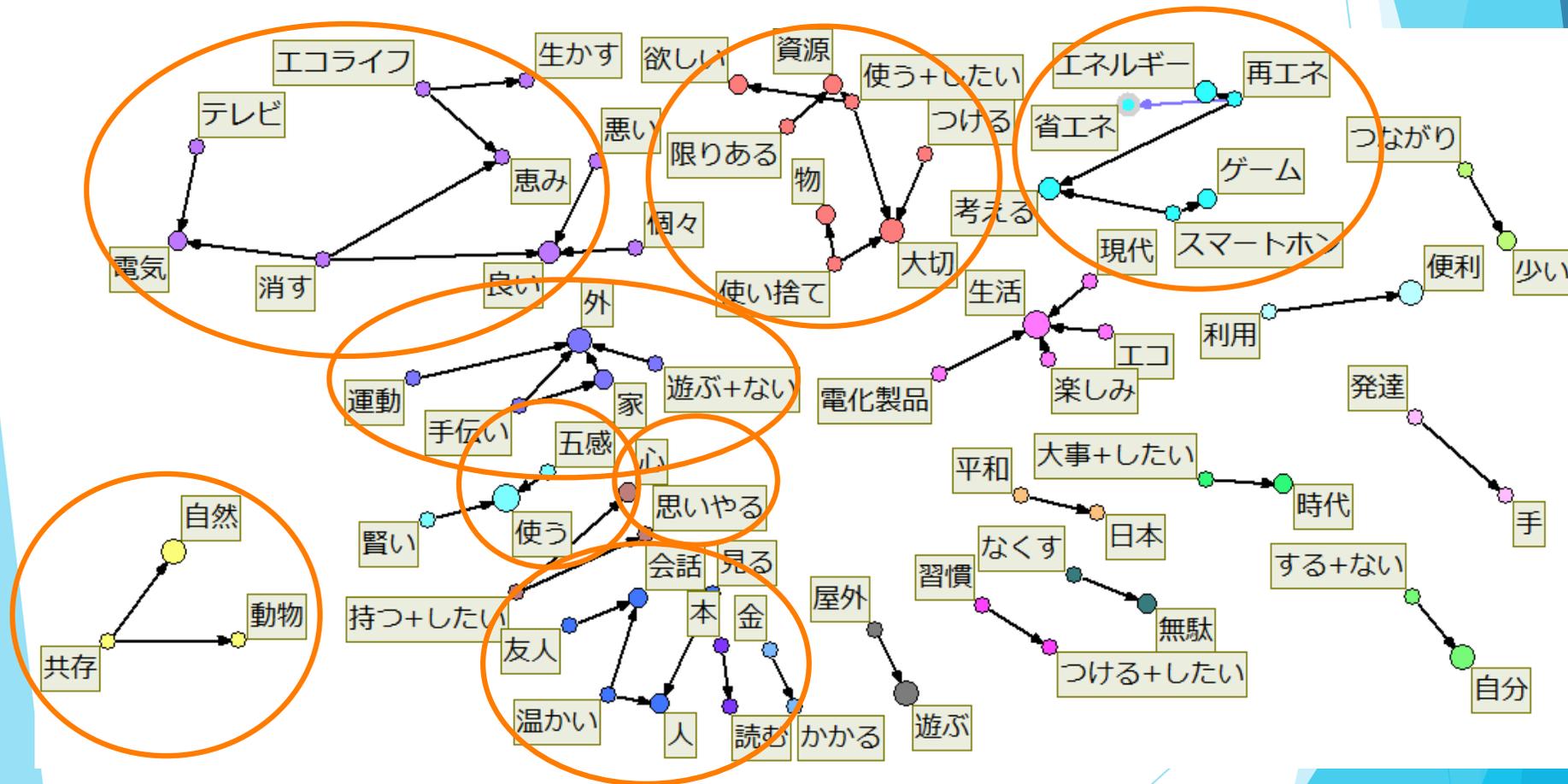
②1964年の良いところ ことばネットワーク



②1964年の良いところ 原文解析

- ▶ 何事も体を使って生活していた。互いに助け合い精神があった。苦勞を苦勞と思わなかった。
- ▶ 排気ガスが少なかった。空気や水がきれいだった。
- ▶ 近所の付き合いに思いやりがあり、助け合いが強かった。
- ▶ 世の中の動きがせわしくなく、のどかだった。
- ▶ 機械を使わなかった分、身体を動かした結果、健康につながった。

③子どもたちへのメッセージ ことばネットワーク



③子どもたちへのメッセージ 原文解析その1

- ▶ 電気エネルギーを上手に使うことが大事。マメに電気を消す。水を出しっぱなしにしない。心を豊かに生活できるようテレビ、スマートフォン、ゲームなどの時間を工夫する。自分の心を奪われない。
- ▶ 自然と共存して、自分たちの便利ばかりを追求しないで、動物、自然を守ってほしい。
- ▶ 便利な世の中だけに会話がなく、友達と一緒にいても自分の世界に入って、違うことをしているのではなく、友人とのコミュニケーションを大切にして、会話を多くすることを希望します。

③子どもたちへのメッセージ 原文解析その2

- ▶ 今の子どもたちは携帯電話を見ていることが多く、家族だんらんがなくなっている。私のころは父が本を読んでくれたりし、本を読むことが好きになったので、もっと本を読んだり、人と会話するようにしてほしい。
- ▶ スマートフォンなど便利でしょうが自分で考えたり、五感を使うことを大切にしてほしい。
- ▶ 限りある資源をエコ意識を常に持って生活してほしいです。
- ▶ 思いやり、助け合いの心を持ってほしい。

5. まとめ

- ▶ 1964年に苦勞したことで、私たちが一番大変に捉えたことは電話がなく、近所の家まで呼びに行っていたことである。携帯電話が当たり前の世代にとっては、考えさせられる題材である。
- ▶ 1964年の良いところは、世の中がせわしなくなく、近所付き合いも多く、お互いに助け合い精神があった点である。地域社会におけるコミュニケーションのあり方が題材として考えられる。
- ▶ 今後の授業実践では、テキストマイニングにより抽出した現代の子どもたちへのメッセージも示し、高校生がどのようなことを思い、どのような生活をしていきたいかを明らかにする。

謝辞

1964年の生活に関する情報収集の際には、山梨ことぶき勸学院の関係者各位のご協力を得ました。ここに記して、深く感謝の意を表します。

参考文献

- [1] 文部科学省 (2016) 平成28年版科学技術白書
- [2] 澁澤 文隆 (2011) 1960年頃の生活に学ぶ,
エネルギー環境教育研究, 6(1), 103-108